

会社データ

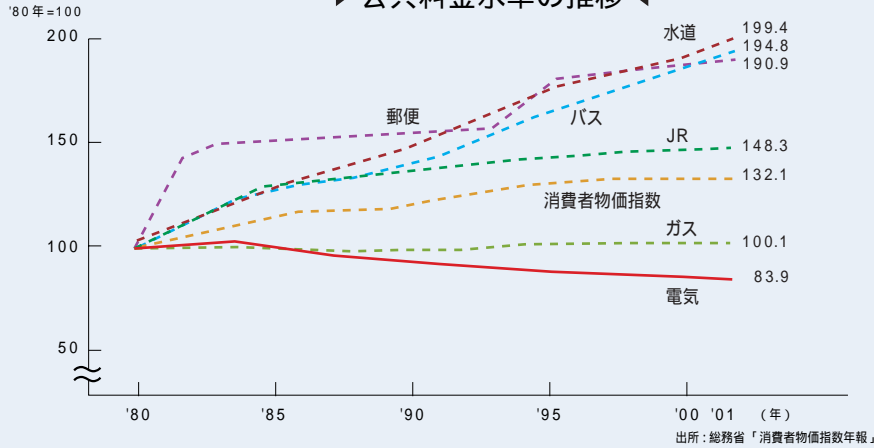
概要 (2002年3月末現在)

設立年月日	1951年5月1日
資本金	4,893億円
発行済株式数	9億6,269万株
売上高	2兆5,178億円 (連結ベース 2兆6,515億円)
総資産額	7兆0,434億円 (連結ベース 7兆5,075億円)
従業員数	2万5,567人
販売電力量	電灯 444億kWh 電力 954億kWh 合計 1,398億kWh
契約口数	電灯 1,149万口 電力 140万口 合計 1,289万口
発受電電力量	1,525億kWh
最大電力	3,306万kW(発電端1日最大)(2001年8月2日)
供給地域	大阪府、京都府、兵庫県(一部を除く)、奈良県、滋賀県、和歌山県ならびに三重県、岐阜県、および福井県の各一部(面積 = 2万8,700km ²)

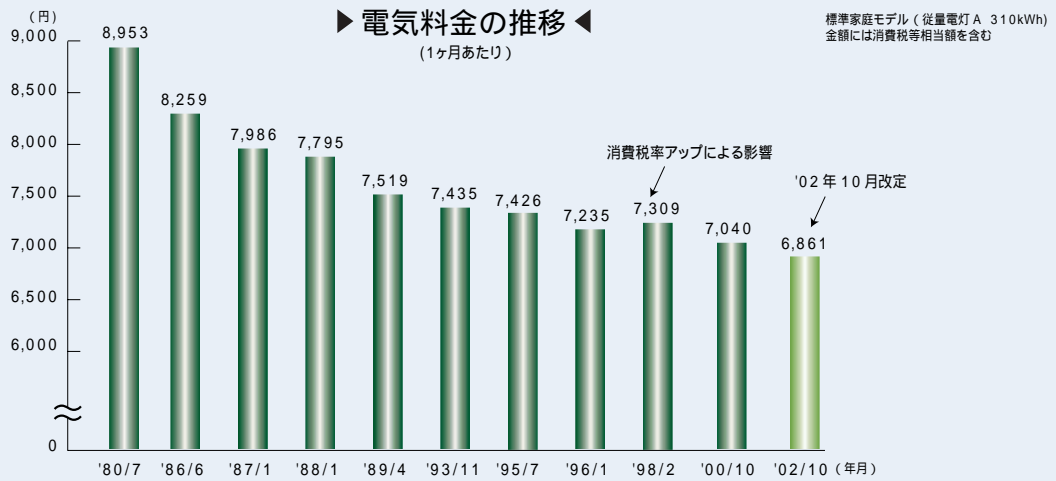


最大3日平均電力(送電端)

公共料金水準の推移



電気料金の推移

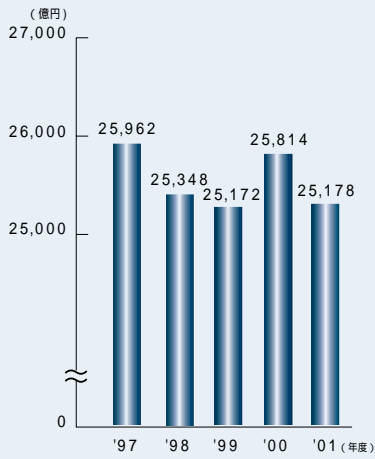


電源開発計画

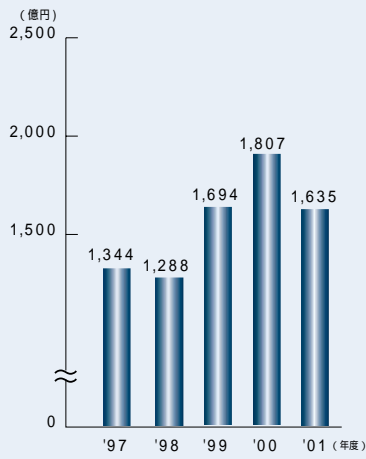
'02年3月末

	種別	発電所名	出力 (万kW)	運転開始	出力計 (万kW)	所在地
工事中	火力	舞鶴 (石炭)	90.0x2	'04/8 (#1) '10/8 (#2)	181.05	京都
	一般水力	大滝	1.05	'03/3		奈良
着工準備中	火力	和歌山 (LNG)	1号系列 164.4 (82.2x2) 2号系列 205.6 (82.2x2) (41.1x1)	'12年度以降	1038	和歌山
		御坊第二 (新種燃料)	110.0x4	'12年度以降		和歌山
	揚水	金居原	38.0x6	'12年度以降		岐阜 滋賀

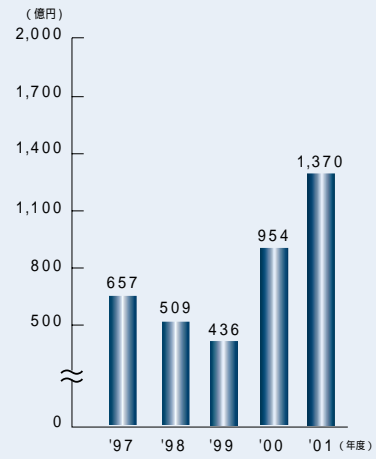
▶ 売上高 ◀



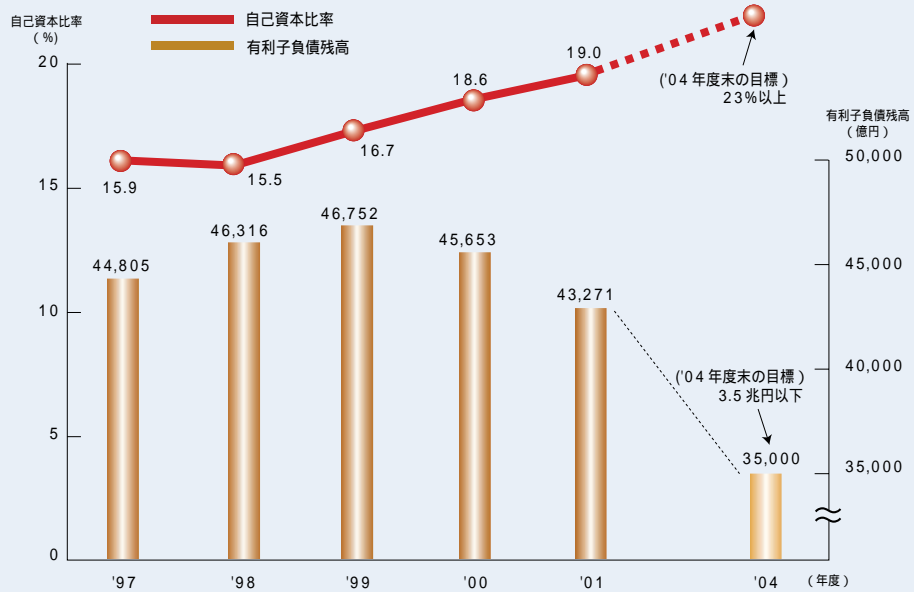
▶ 経常利益 ◀



▶ 当期純利益 ◀



▶ 有利子負債残高と自己資本比率の推移 ◀



歴史

関西電力の歩み

関西電力の出来事	年	社会情勢
電気事業再編に伴い、関西電力発足	1951	講和条約調印
原子力研究開発のため、「原子力部」発足	1957	
世界初の気球工法による鳴門海峡横断送電線工事成功	1961	
7年に亘る難工事の末、黒四発電所竣工	1963	
夏季最大電力が初めて冬季最大電力を上回る	1966	
当社初の原子力発電所である美浜発電所1号機運転開始	1970	大阪で万国博覧会が開催
	1973	第一次石油ショック
50万ボルト基幹系統完成	1976	
姫路LNG基地竣工	1979	第二次石油ショック スリーマイル島原子力発電所で事故発生
電力業界で初めてTQCを導入	1981	
製造業・建築業以外で初めてデミング賞を受賞	1984	
	1986	チェルノブイリ原子力発電所で事故発生
年度の販売電力量が1,000億kWhを超える	1987	
	1990	大阪で国際花と緑の博覧会が開催
美浜2号機蒸気発生器細管破断事故発生	1991	湾岸戦争勃発
美浜2号機事故を教訓として原子力安全システム研究所を設立	1992	ブラジルで地球サミット開催
31年ぶりに電気事業法が改正され、卸電気事業などの規制が緩和	1995	阪神・淡路大震災発生
電気料金の値下げ。初めて電気卸入札を実施	1996	
	1997	京都でCOP3開催
電気料金の値下げ	1998	
電気事業法が改正され、電力の小売部分自由化がスタート。 届出による初めての電気料金の値下げ	2000	
5年ぶりに最大電力更新(3,306万kW)	2001	
電気料金の値下げ	2002	